

## 令和4年度 第1回スポーツ推進審議会会議録（要旨）

- 1 日 時 令和5年3月16日(木) 午後7時～午後8時10分
- 2 開催場所 防災センター303 会議室
- 3 出席委員 秋元会長、島本副会長、須貝委員、鈴木委員、並木委員、松葉委員、高橋委員  
欠席委員 金子委員、高木委員、伊地知委員  
事務局 鎌谷社会教育課長、瀧川社会教育課長補佐兼社会教育係長、高橋主事
- 4 議 題
  - (1) 令和4年度のスポーツ関係事業の実施状況
  - (2) 現状及び今後の課題
  - (3) その他
- 5 提出資料
  - 資料1 狛江市スポーツ推進審議会委員名簿
  - 資料2 令和4年度スポーツ関係事業の実施状況
  - 資料3 現状及び今後の課題
  - 資料4 第3期スポーツ推進計画（概要）
  - 資料5 運動部活動の地域移行に関する検討会議提言の概要
  - 資料6 令和3年度第2回スポーツ推進審議会会議録（要旨）
- 6 会議の結果  
高橋主事から着任のあいさつ

議題（1）令和4年度のスポーツ関係事業の実施状況

【事務局より資料2に基づき説明】

質疑なし

議題（2）現状及び今後の課題

【事務局より資料3・4・5に基づき説明】

委員

私は部活動の支援に関わっており、地域移行の状況等も聞いているが、地域移行するにあたってその地域、コミュニティなどで、学校と地元を繋いでいくということの必要性を感じている。

他市の部活動の地域移行にも関わっているが、あまり進んでない状況である。そこでは、市役所のスポーツと教育の部署の連携、学校との連携がうまくできないことが課題となっている。狛江市の検討状況はどうなっているのか。

#### 事務局

1月末に部活動の地域行に関する検討委員会を設置し、2回委員会を開催している。

#### 委員

第一回の検討委員会では学校の現状は話に出た。中学校の野球部では、部員が集まらず、試合ができない学校がある。一方で教員としては、休みなしに出るのは普通だと思ってる方もいる。子どもが減って、教員の数も減って、仕事が増えていっている状況がある。

#### 委員

部活動は教育の一部として考えている親も多い。生活指導をする上では、部活が重要と考えている教員も多い。そこに教員以外の指導者が入ってきて うまくいくのかという議論もあった。検討委員会では、まず、野球部から地域移行を始めてはどうかという意見が出ている。

#### 委員

国としても休日の移行から考えていこうということになっているが、部活動の地域移行に関して、市内ではどのような体制になっているのか。

#### 委員

新しい担当や部署を作る動きはなく、指導室が中心となって進めている。スポーツの所管部署として社会教育課とも連携をして取組を進めている。これから具体的などころを詰めていく段階ある。スポーツ担当部署が市長部局にあるところも多いが狛江市は教育委員会にあり、隣の部署なので、比較的連携が取りやすい。

#### 委員

教育とスポーツの両方に関わって来るので、間をつなぐ部署や担当が必要だと思う。現状の検討委員会をベースとするとしても組織化してやっていかないと回らないのではないかと。高校で部活動指導員をやらせていただいているが、東京都の公立高校の部活動指導員でも平日の昼間が夕方には中学校、高校指導した経験のある指導者が集まら

ない状況である。

#### 委員

スポーツ経験のあるだけの選手が来ても、スポーツ指導のみになってしまう。ジュニアスポーツ指導の経験がない方だと怪我をさせてしまう可能性もある。

#### 委員

指導者の高齢化が進んでいる、その結果子どもたちのスポーツ離れにつながり、そもそも機能が果たせなくなっていく可能性がある。

#### 委員

中高生はスポーツの中でも1番大切な時期で、やりすぎがあってはいけない。今まで部活動の顧問の何十年というノウハウがありそれがなくなるになるということは大きなことである。

#### 委員

陸上に関しては補助金もいただきながら、去年の12月から毎月1回、小学生の陸上教室を始めたところである。市内には陸上専用のグラウンドがなく、世田谷等のグラウンドを借りて練習している。市内で陸上教室をしようとする西和泉グラウンドを借りるが、施設の利用は一般と同じ抽選である。抽選は3か月前に申し込む必要があり、年間のスケジュールが組めないため体育協会の補助事業として行っている。中学生に関しては、そこからさらにステップアップしたグループを作って、大会に出ていく人を出していきたい。

#### 委員

我々のように中学生を集めてクラブ化しようとした場合、練習場所がない。抽選で取れないと練習できない。簡単な話ではないがその仕組みを考えて欲しい。地域移行の受け皿となった場合には、来週は抽選で取れなかったから、場所練習ないというわけにはいかない。団体としても知恵を出しながら考えていくが、市としても仕組みを考えて欲しい。

#### 委員

子どもの頃からスポーツをすると続くことが多い。小学生の時始めると、中学校で部活に繋がりやすい。

#### 委員

子ども達ほどプロやアスリートが教えるべきである。アメリカでは、子どもの野球を

見るとすごいスイングで三振する。それでも怒るのではなく、応援している。指導者の育成が一番大切である。

委員

部活動はや日本独特の文化で、ボラティアで先生が行っていた時とは時代が変わってきている。プロチームがあるところから、クラブチームクラブチームができはじめている。

委員

挨拶ができるようになるとか、関わりの深い後輩できるのも部活があるからである。そうした面でも部活を守っていくことは重要である。

委員

教育の一環としてある部活が必要ないのであれば、全部クラブチームにすれば良い。そうした機能をしっかり守ったうえで移行してしていくためには、それなりの指導者が必要である。

委員

例えば、ドイツでは100年前に総合型スポーツクラブの制度ができて、現在も公的な支援が行われている。日本では補助が行われたのは最初の3年のみである。

委員

ほとんどの方はスポーツを楽しんでいけるようにすればよいが、1万人に1人のトップアスリートになれる人を見分ける必要もある。世界一になれる人が出てくる可能性があるならそれを活かせるようにするべきである。

委員

部活は基本的に無料できるが、クラブになると負担金が出てくる。お金がないと行きたくてもいけないのは問題である。

委員

現在こまわくらぶで行っていることが学校に合うならば、それを取り入れても良いと思う。現状の仕組みとマッチングさせてもいい。

事務局

地域移行を検討する委員会にはこまわくらぶの方も委員として参加している。

#### 委員

各競技団体でジュニア部門があるのでそうしたものをうまく活用して狛江モデルを作ってほしい。

#### 事務局

例えば、どこかの学校に集まって行うとしても、市域が小さいので他の市町村よりは行きやすい。そのような狛江の特性を活かしていければよい。

#### 委員

アメリカにはドネーションがある。寄付すると、30%位税控除される。日本ではそのようなことが遅れている。

#### 事務局

稲城市では企業版ふるさと納税で資金を集め、事業者に委託して部活動の外部指導員を配置しているそうである。

#### 委員

民間事業者が入ってくることは懸念もある。もし経験のない方が配置されるようであれば指導に支障が出る場合もある。

#### 委員

例えば試合で実績のあるアスリートが来たとしても教えることができるとは限らない。見せることは、やらせることもできて、教えることはできない場合もある。子どもをしっかり育てていくようなシステムだったり、考え方が必要である。

#### 委員

私の大学ある茨城県利根町では、モデルケースとして昨年10月から地域移行を始めている。大学生が毎週土曜日学校に行って教員やその地域の指導者と一緒に指導している。勉強しながらではあるが子ども達には喜ばれている。モデルケースとしてアンケートを取ったりしながらできることから行っている。

#### 委員

教員の負担を軽減したいということもあるが、部活動をやりたい教員もいる。その場合は兼業兼職の届を出して続けてもらってもよい。

#### 委員

利根町1万5000人の人口で2つしか中学校がないの。狛江市と全然環境が違う。や

はり狛江市の強みを踏まえた上で、やっぱ考えていった方がいい。

委員

私に関わっている区では、陸上教室は区が主催し陸上競技協会に委託して行っている  
ので定期的の実施できている。市としてどういった制度にするのか、ビジョンを持って  
行うべきである。

委員

スポーツ基本法では、指導者の育成は自治体の役割である。市としてどう考えるか  
いうことも考えて行くべきである。

事務局

社会教育課でが、むいから民家園のかやぶき屋根の葺き替えをガバメントクラウドフ  
ァンディングで行った。目標額 200 万円のうち、90 日で 170 万円以上集まった。稲城  
市のように企業から集めることは難しいかもしれないが、こうしたことも考えてもよい  
のではないかと。ただ、それには、それに答えられるだけの志乃魅力をつくっていく必要  
がある。

議題（3）その他

事務局

次回は 10 月を予定

会長

本日は以上で閉会とする。